

ようやく2mの小滝が出てきた。しかしあとが続かず、平凡なまま右俣出合、続いて左俣出合となる。今日の目的は中俣である。

この先は急傾斜となる。滝を期待したのだが、残念ながらひとつも現れないまま源頭部に達してしまった。源頭部は急峻なルンゼとなっている。半ば落石で埋まり、足元に注意しながら登る。ルンゼ途中に階段状の滝がかかるが、楽に通過。ぐんぐんつめ上げていって、最後はヤブの中に飛び込む。(

[タイム] 栗生沢(6:50)→コクトツ沢出合(7:40)→アノヤマ沢出合(8:05)→コイチガ沢出合(8:30)→右俣出合(8:55)→中俣終了(10:05)

蔵川右俣

1986年7月26日

L

中俣の遡行を終えて、東方に30分程やぶをこぐ。カブレ沢の流れを見降ろす尾根に出てから右俣の下降開始。

右俣の源頭部は、やはり落石のいっばいつまった急峻なルンゼである。上部は草付きまじりで、所々岩場が顔を出す。部分的に下降不可能な所もあり、右岸の樹林帯に逃げ込んだりしながら下降。右岸から2本のルンゼが合流するところまで下降してようやく小休止できるようになる。軽く昼食をとって出発。

右岸からルンゼが2本入り、沢が左にカーブすると、小滝が連続するようになる。大きいものでも落差は5m程度。花崗岩質で割とホールドがあり、ほとんどは楽にクライミングダウンできるが、たった2mの滝1個が下れない。結局、左岸の立木に支点をとって懸垂下降する。

10mのナメ滝を下ると沢幅も広くなる。そして沢は平凡に。ホッと一息つく感じで進むと、今朝方通っていった右俣との出合であった。(記・

[タイム] 右俣下降開始(11:00)→右俣出合(12:45)→コイチガ沢出合(13:05)→アノヤマ沢出合(13:20)→コクトツ沢出合(13:40)→栗生沢(14:40)

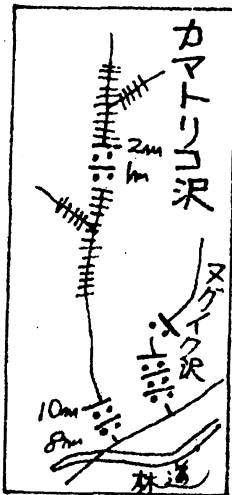
アノヤマ沢

1986年7月26日

L

8:00アノヤマ沢出合。水が流れてなく、濁沢であろうと覚悟を決めて遡行を開始する。15分程歩くと水流が見え始める。出合付近が伏流となっているようだ。

沢は平凡。等高線が混んでいるだけで、悪場もないままどんどん高度をかせぐ。出合より50分程で源頭部。そこからヤブをこいで黒滝股山のピークに立つ。



出合の2つの滝を過ぎると、あとは平凡となる。おまけに水もなくなって、ちょっと張り合いがなくなった。

やがてナメが出てきて二俣。右俣に入る。ナメが続き、小滝もでてくるが、平凡なままで源頭となってしまった。適当な所で引き返す。

(記・

【タイム】 出合(7:15)→二俣(7:45)→遡行終了(8:20)

蔵川中俣

1986年7月26日
L

栗生沢の部落から蔵川左岸の河岸段丘上につけられた踏跡をたどる。この踏跡は河岸段丘上にひらけた畑に向かうものであるが、もっとも近い部分の畑以外が放棄されてしまった現在では、踏跡の管理もままならないのか、荒れ地と化してしまった耕地の中で完全にブッシュに埋まってしまっていて、ちょっと迷ってしまった。しかし、それも樹林帯には入るまでで、その先は結構はっきりしていた。

踏跡が新しい植林地に出たところで、コクトツ沢との出合に向けて、樹林帯の急斜面を下る。下りついた所は、砂防ダムのすぐ下流で、ダムのすぐ上流がコクトツ沢出合であった。ここまで苦労して踏跡をたどったというのに、何と、ここには車道がのびてきていた。ダム建設のときに作られたものらしい。これを知っていれば、苦労することはなかった。

7:45、アノヤマ沢に入る和泉パーティと一緒に遡行開始。樹林帯の中の暗い沢であるが平凡。20分程遡ってアノヤマ沢出合。和泉パーティと別れる。

アノヤマ沢出合のあたりからは、左岸に岩場が出てきて、先を期待させたが、依然平凡な沢筋が続く。と、左岸に石積みの炭焼き釜跡。土でできた炭焼き釜ならよく見るが、石積みとは珍しい。しかも原形をとどめている。記念に写真を撮って、また歩き続ける。

コイチガ沢出合を過ぎてしばらく遡った所で、

